

令和6年度 北毛地区小学校体育科研究会 レポート

○日 時：10月22日(火)

○会 場：昭和村立東小学校

○単元名：走り幅跳び(4年)

○指導者：小野里 将希 教諭

今年度の北毛地区授業研究会は、昭和村立東小学校の小野里将希教諭が授業を提供してくださいました。今回取り上げてくださった「走り幅跳び」は、新体力テストの「幅跳び」にも共通するところがあり、児童の体力向上につながる単元です。授業の流れに沿って、6つのポイントを取り上げていきたいと思えます。



はじめ①導入の工夫

最初に「学習計画シート」を使って単元の計画を確認しました。児童それぞれが前回なにをしたのか、今日はなにをするのかななどを明確にすることができました。また安全面について全体できちんと確認したことで、大きな事故なく授業に取り組むことができました。

②補助運動(グリコじゃんけん)

補強運動として「グリコじゃんけん」をしました。走り幅跳びに必要な片足で踏み切り、着地は両足ですという感覚を身に付けさせようというねらいでした。遊びに近い活動であったことで、子ども達も楽しみながら活動に取り組んでいました。



③場の工夫

実際に走り幅跳びに取り組む際には場の工夫がされていて、指導者が児童に身に付けて欲しい力が身に付くように設定されていました。また、ロイロノートを活用し、それぞれが見つけたコツを共有ノートに送ることで、全体で確認する際に有効に活用することができました。





④ICTの活用（情報の共有）

活動中にそれぞれが見つけたコツを共有する時間でICTを活用していました。ローノートの共有ノートを開くとクラス全員がコツを確認できるという工夫がされていました。走り幅跳びの連続図のまわりに児童が見つけたコツがあることで教師も児童もどの場面のことを言っているのかが分かりやすかったです。

⑤焦点化された試行錯誤の時間

全体で「リズムが大切」ということを確認した後に、再び走り幅跳びに取り組みました。子ども同士で「どんなリズムになっているかな」「〇〇なりズムだよ」など、リズムに関して相談したり、伝え合ったりする姿がたくさん見られました。



つけたコツ・メモ	自己評価	ふり返り
9の1日目	A	足は跳びはじめは跳びのうしろ側から、次は走り幅跳び
	A	助走のやり方で飛べる、きりかたが少しはわり、助走のはじめは速く飛ばした

⑥まとめの時間

児童からまとめに必要なキーワードがたくさん挙がりました。振り返りでは、児童が今日の授業で学んだことを自分の言葉でまとめることができていました。本時の学習で身に付けるポイントを児童が十分に理解していたことがよく分かりました。

◎まとめ

「学習計画シート」を活用することで、児童が授業の視点を理解したり、単元の見通しを持ったりして、主体的に学習に取り組む姿が多く見られました。また、場の工夫によって児童が主体的に繰り返し跳躍する姿が見られ、運動量が確保されていました。ICTの活用では、活動の途中で共有ノートにコツを書き残しておくことによって、自分の学習を振り返ったときに質の高い振り返りをしている児童が多くなったと思います。

授業を提供してくださった小野里将希先生、会場を提供してくださった昭和村立東小学校の先生方をはじめ、研究会開催にご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責：利根郡小体研）